

とても身近な 認知症と向き合う



みなさんは、人の名前や前日に食べたもの、または約束などを忘れてしまった経験はありませんか？
誰にでも、「もの忘れ」はあるものですが、その程度や頻度によっては、「認知症」の表れかもしれません。
2025年には、65歳以上の約5人に1人が認知症患者になるとの推計もあり、一般的なものとなりつつあることから、ご自身、またはご家族やご近所の方が発症することも考えられます。
いざという時のために、きちんと「認知症」を理解して、向き合っていきましょう。



認知症って？

認知症は、脳の細胞がさまざまな原因で減少、または働きが悪くなることなどによって、記憶力や判断力が低下した状態を示す**総称**であり、病名ではありません。

その認知症を引き起こす病気として、代表的なものがアルツハイマー病で、認知症患者全体の6割以上を占めていると言われています。



初期の認知症のサインは…

- 例)
- ・人や物の名前が出てこない。
 - ・何度も同じことを聞いたり、言ったりする。
 - ・周りへの気づかいはなくなり、頑固になる。
 - ・約束の日時や場所を間違える。
 - ・物を置いた場所がわからなくなる。
 - ・料理は作れても、火を消し忘れることがある。
- など

※上記は目安であり、認知症を診断するものではありません。

～「認知症かな？」と思ったらご相談ください～

ケース1 72歳の妻と二人暮らしのAさん

最近の妻は、「買い物に行ってくる」と言い出かけるものの、「何のために買い物に行ったか忘れてしまった」と言って帰ってくることもある。それ以外に変わった様子はないが、大丈夫だろうか？

ケース2 80歳の父親と同居しているBさん

以前より物忘れが目立ってきたので、父親に病院受診を勧めるが「大丈夫だ！」と拒むので、前に進まず困っている。
症状が悪化する前に検査や治療を受けてもらいたいと思っている。



認知症は、患者さんにもよりますが、早期に発見・対処することで回復したり、進行を遅らせたりすることも可能な場合があります。

心配ごと・困りごとがありましたら、お気軽に地域包括支援センター **なのはな**へご相談ください。

なのはな ☎71-7085

↓
役場の1階にあります！

認知症総合支援事業 がサポートします！

認知症の重症化を防ぐために

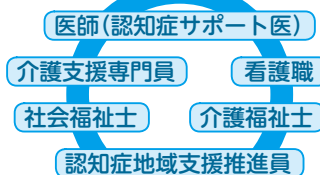
認知症の専門知識をもったメンバーで構成される「**認知症初期集中支援チーム**」は、認知症が疑われる方、または認知症の方並びにそのご家族を訪問して、さまざまな相談に乗るとともに、医療機関と連携して、受診や介護サービス利用にかかわる支援など、認知症に関するサポートを一定期間(おおむね6ヶ月以内)集中的に行っていきます。

支援を受けられる対象

※次の3要件を満たす方

- (1) 40歳以上で在宅の方
- (2) 認知症が疑われる方、または認知症の方
- (3) 医療・介護サービスを受けていない方、または中断している方

チーム



認知症への理解を深めてもらうために

地域包括支援センター「なのはな」に、認知症を専門に皆さんの支援をする「**認知症地域支援推進員**(保健師)」を配置しています。

さらに、皆さんに認知症への関心を高めていただくながら、ご理解いただけるよう、その推進員や介護支援専門員などが連携して、講座や研修会を開催しています。



町地域包括支援センター「なのはな」の職員



問 高齢介護課地域包括ケアシステム推進班